

アベ政権は アブない

欠陥機オスプレイ の低空・夜間飛行訓練

組員の皆さん、日米両政府は2013年2月、沖縄普天間基地に配備されている垂直離着陸輸送機MV22オスプレイの低空飛行・夜間飛行訓練をルートで実施することを発表しました。

ルート：沖縄九州 イエロー：九州 オレンジ：愛媛と歌山 ブルー：岐阜と新潟 ピンク：新潟と青森 グリーン：茨城と青森 ブラック：北海道 ※秘密扱いされているアラートルート：中国地方を加えると8ルート。

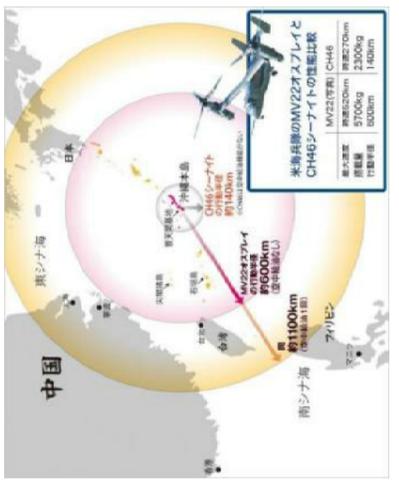
夜間を含め、330回の低空「爆撃」訓練です。

ところが、低空爆撃訓練はまだルート上ではゼロなのです。



PEACE石川 NO45 2014.3
発行 石川県平和運動センター
金沢市西念3-3-5 Tel. 076-233-2170
ホームページhttp://i-peace-ishikawa.com/

反戦・平和、人権
環境の火を消すな



省内外島はもちろん、中国本土も射程に入れ、飛躍的に輸送・攻撃能力を高める

③ 飛行機の理念に反する
これは若干専門的になりますが、揚力と推力のバランスをとる難しさからそのように言えます。通常は推力を増せば揚力が増える仕組みとなっていますが、オスプレイは揚力と推力をバランスさせる必要があり、どちらか一方が崩れると片方も崩れ、「落ちる」危険性が高まるのです。
いざという時、落ちるしかないのです。だから、万全の整備状態であれば「飛ばない・飛べない」のです。

② オートローテーション機能がない
通常のヘリコプターには「いざというとき」軟着陸できるようオートローテーション機能があります。しかしオスプレイには、構造上、整備することができません。
いざという時、落ちるしかないのです。

① 複雑な主翼油圧系
主翼を水平に90度回転させ、かつ垂直に90度回転させなければ、上昇し「飛行」することができない。この複雑な構造の主翼のなかを油圧系が通るため、厳密な整備が求められます。しかも、その整備は、普天間基地と岩国基地しかできません。整備士がいないのです。
このことから、いざというときは「落ちる」しかないのです。



主翼ローターから火を噴くオスプレイ

なぜでしょうか。
それは「欠陥機」「落ちやすい」と言われる所以からです。

なぜ住宅地を横切り、山間地で低空飛行訓練するの？ 8ルート上の訓練は、レーダー網をかくぐり、敵を「撃破」するための「爆撃訓練」だ！ 欠陥機オスプレイ 石川の空を飛ぶな！

低空飛行訓練は、 違法のかたまり！

低空飛行訓練とは、アメリカ軍が行う爆撃訓練のことです。

ルートにある学校や病院、発電所やダムなどを仮標目標として、山間地や谷間をレーダーに捕捉されないように高度150メートルで侵入するのです。

公共施設を目標にして地上150メートルで低空飛行する訓練は、明らかに国内法に違反します。

国内法の航空法施行規則では、航空機の最低安全高度を、

- 「人又は家屋の密集している地域の上空にあつては、当該航空機を中心として水平距離600メートルの範囲内の最も高い障害物の上端から300メートルの高度」、
- 「人又は家屋のない地域及び広い

事故10回36人死

オスプレイは、開発段階で4回、部隊配備後も6回の墜落事故を起こし、36人が死亡しています。アメリカ政府は、オスプレイの機体に不具合はないと発表していますが、墜落が相次いでいる事実を否定することはできません。危険なオスプレイが、危険な低空飛行訓練を行うことは、ルート下の住民の生命と財産を危険にさらすこととなります。

アメリカのニューメキシコ州やハワイ州では、地元住民の反対で低空飛行訓練を中止するという対応を米国政府および米軍はとっています。

在日米軍の事故

在日米軍は、1994年にオレンジルート下の高知県早明浦ダム近くで、A6イントルーダー攻撃機が墜落して乗員2名が亡くなっています。伊方原発の延長線上です。

米軍機の墜落事件はこれまで250件以上にのぼり、1959年の沖縄県宮森小学校（死者17人）での墜落事件、1977年の横浜市青葉区（死者3人）など、多くの痛ましい事件を起しています。

2004年の沖縄国際大学のヘリコプター墜落事故は記憶に新しいところであり、1973年以降、ヘリコプターの墜落事故は沖縄北部湧泉場を中心に20回を超えています。